

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 飛驒吉城特別支援学校 学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和6年11月21日（木） 10:00～12:00
- 3 開催場所 飛驒吉城特別支援学校 図書室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
会長 蓑輪 一幸 卒業生保護者代表
副会長 尾崎 佐和子 PTA会長（欠席）
委員 水畑 和久 地域代表（殿町21区区长）
中村 泰己 地域代表（商店主・青龍会会長）
中切 智子 地域生活安心支援センター担当課長
奈木 桂子 福祉事業所理事長
柚原 誠 神東会理事長
上口 淳 古川小学校校長

学校側	太田 浩司	校長
	奥田 和代	教頭
	老田 晃聖	事務長
	道下 亜紀子	小・中学部部主事
	西垣 光洋	高等部部主事
	中田 健太	教務主任

5 会議の概要（協議事項）

- (1) 今年度の地域との連携・交流活動について
- (2) 学校評価アンケートの結果について
- (3) 授業参観
- (4) 高等部生徒によるプレゼンテーション
- (5) 意見交換会

意見1：障害者雇用セミナーに高等部生徒がプレゼンで参加したことが、新聞に掲載されていた。ホームページにアップするなど、積極的に発信していくことは大事である。

意見2：これまでの実践を聞き、交流活動がぐんと増えたように感じた。地域とのつながりによって、子どもたちの学びの場が増えることはよいことである。また、高等部生徒が地域である飛驒市で就職できることはよいことで、セミナーへの参加はそれにつながる取組にもなっていると思う。

「卒業生と語る会」があると、社会人となった先輩の生の声を聞くことができ、よいのではないか。

意見3：この学校に通う子どもたちは、卒業するまでにいろいろな体験ができて幸せだと思う。7人に1人はグレーゾーンの子がいると言われている中で、その子ど

もたちもこの学校で学ぶことができたらいいのにと感じた。また、思春期検診を始めたところ、自分で自分の思いを口にすることが難しい子どもが多いことが明らかになった。こういった子どもたちのケアができる取組をしていけるとよい。

意見4：小学校との交流活動については、当校の立地状況を生かした交流ができていてよい。小さい頃からの経験はよい学びにつながると思う。

できることばかりがよいのではなく、「しんどい」と自分から言えることがとても大事である。分かったつもり、できたつもりでは、社会に出たときに歪みが出てしまう。

意見5：企業への発信など、横の広がりを感じた。障がい者雇用が5名を超えると職業生活相談員の配置が必要になるなど、企業側としても、学ばなければならないことがある。地域で働く人を育てるために、このような取組を積極的にすすめてほしい。

意見6：交流活動については、お互いの教育活動の中で無理なくできるとよい。卒業生と対面して語れるのが一番よいが、卒業生からビデオメッセージをもらうのも一つの方法ではないか。また、高等部生徒が授業でグラウンドゴルフに取り組んでいたが、昼休みに一緒にやってみるのはどうか。

意見7：知らない人の訪問があっても、子どもたちはとても落ち着いているように感じた。学校評価アンケートの結果については、否定的な意見の中には保護者の不安な気持ちが表れているのではないかと思う。保護者の思いを聞きながら連携を密に図っていくとよい。

(6) その他

- ・第3回学校運営委員会は1月29日を予定。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会において、学校評価アンケートの結果や、今年度の地域との連携・交流活動についての実践報告を行った。
- ・意見交換会で出された内容については、今後、学校で実践できることを検討し、行っていく。また、実践した結果を第3回の学校運営協議会で報告する。